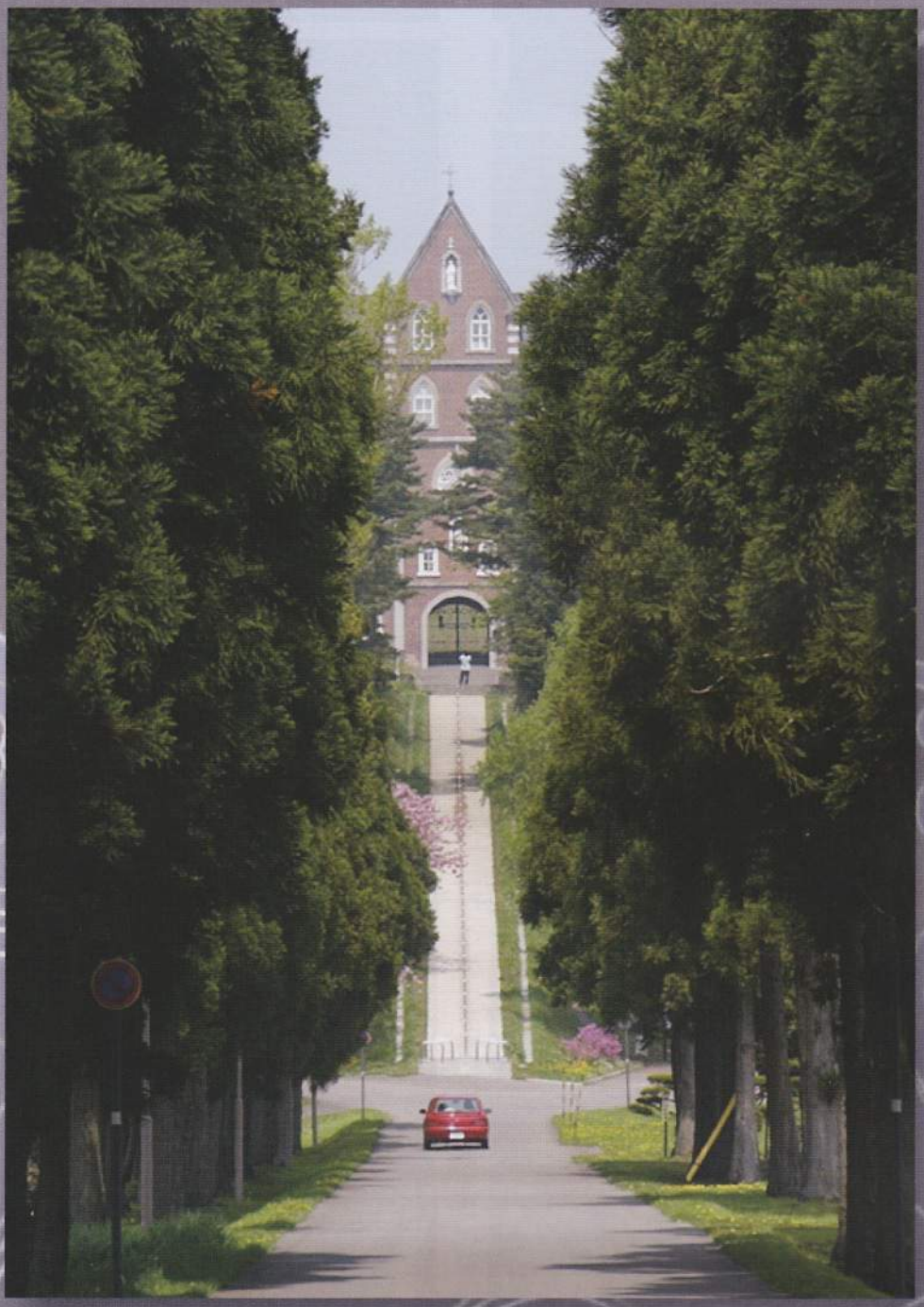
磯の香

20周年記念号



東京北斗会　会報　第7号

総会・懇親会風景

会長挨拶

創立二〇周年に想う

東京北斗会会長
金谷　忠勝

東京北斗会の皆様と共に恙無く二〇周年を迎えることが出来ましたことを心からお慶び申し上げます。

これも偏に会員はもとより高谷北斗市市長を始め、役所の方々、北斗市を支えて下さる有力者の方々の絶大なるご支援、ご協力の賜物であり、深く感謝の意を表するものであります。

また平成七年に遠く離れたふるさとを思い出の地とする会員の方々が、前進の東京上磯会結成にご尽力され大変なご苦労をなされたことを衷心より深く感謝申し上げる次第です。

平成一八年、一〇〇年を超える伝統と地域特性を長い間育んできました「上磯」、「大野」両町の合併という大きな出来事がありました。

旧東京上磯会は、旧大野町出身者へも門戸を開放し入会をして頂き、共に協力し会の継続発展を目指して参りました。

三年前には「東京上磯会」から「東京北斗会」へと実態の北斗市に則した名前に改名し、旧大野町出身者の方々が僅かでも入会がし易くなるのを期待して実行致しました。

お陰様で年間二名～三名の大野町出身者の入会があり、今後にも期待するところ大であります。

我々会員は、ふるさとに対する愛着は勿論のこと思い出として変ってほしくないという一面と、将来の北斗市の発展、変貌に期待感を抱き見届けたいという両面を持ち備えて居ります。

そこに北斗市は大きく変化しようとして居ります

平成二七年度末北海道新幹線が開業致します。

新幹線の走行風景、新駅周辺の景色、企業誘致による景観の変化ですが何よりも関東、東北との交流が盛んになり知名度が上がります。

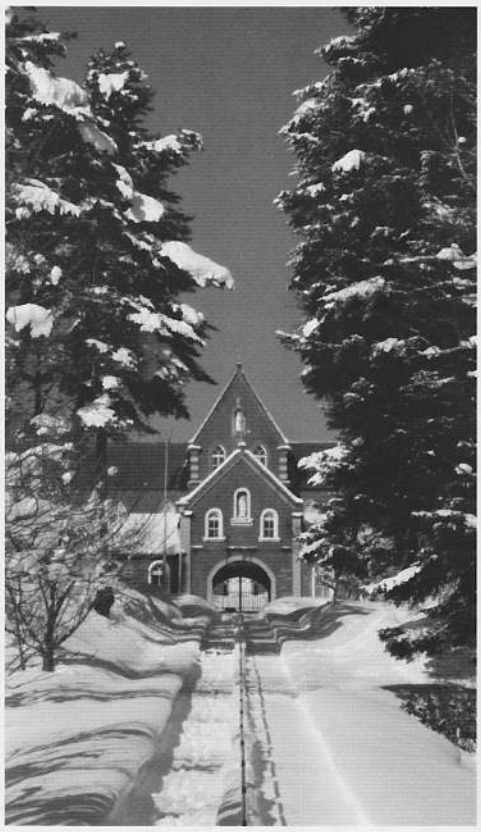
これからの北斗市は、地場産物、特産品の積極的な売り込み、大々的な景勝地、観光施設のＰＲに特化し一大観光地として発展し大きな経済圏としての確立を期待するところであります。

我々ふるさと会としましても、出来る限りの応援は惜しまない所存であります。

東京北斗会は五年、一〇年先を見据えて新規会員の発掘をし、充実した会の運営を目指し相互の親睦と交流を図って参ります。

最後になりますが、会員一同は北斗市と歩調を合わせ今後共に歩んで行きたいと思って居ります。

北斗市、そして東京北斗会に栄えあることを祈念します。



トラピスト修道院

北斗市市長挨拶

東京北斗会創立二〇周年を祝して

北斗市市長
高谷　寿峰

東京北斗会創立二〇周年にあたり、心からお祝い申し上げます。

貴会は、ふるさと上磯の出身者やゆかりのある方々が、遠くふるさとを離れても、いつまでも上磯に郷愁を感じ、ふるさとに対する共通の思い出を土台として、会員相互の親睦を深め合い、ふるさと上磯、北斗の限りない発展に寄与することを目的に、平成7年、東京上磯会として設立されました。平成二〇年からは、旧大野町出身者へも門戸を広げるとともに、平成二十四年には会の名称を東京北斗会と改め、設立から二〇年の歳月を経た今日では、名実ともに確固たる基盤が築かれているものと存じます。この記念すべき節目を迎えるにあたり、歴代会長をはじめ、関係各位のご尽力に対し、深く敬意を表するものでございます。

さて、平成二十八年三月の北海道新幹線開業まで残すところ六〇〇日を切りました。市民の間では、新幹線開業に向けた機運が盛り上がりを見せており、市内各所に新幹線開業カウントダウンボードが設置され、開業に向けたさまざまなイベントが多くの市民、観光客にお集まりいただき、盛大に行われているほか、市内の小中学生が、修学旅行先で北斗市のPR活動を行うなど、市内全域で歓迎ムードが一段と高まって参りました。

新幹線開業を見据え、北斗市観光の柱の一つとして整備に取り組んでいる「桜回廊」は、今年は気象条件等に恵まれ、見事な満開の花をつけ、戸切地陣屋跡の桜並木や法亀寺のしだれ桜など、ライトアップされた夜桜の幻想的な情景は、訪れた多くの市民や観光客を魅了してくれましたし、青森県下北半島から羊蹄山まで見渡せる広大なパノラマ眺望が魅力のきじひき高原には、今年、新たに屋内展望施設を建設し、多くの観光客が北海道らしいロケーションをゆっくりと堪能いただけるよう整備を進めているところです。

また、北斗市の「いいところ」を全道全国に発信するため誕生したご当地キャラクター「ずーしーほっきー」は、特産のホッキずしをモチーフにしたユニークなデザインと愛嬌のある表情が、子どもからお年寄りまで広く親しまれ、全国的にも大変人気を集めており、市内外で開催される各種イベントなどに登場し、北斗市の宣伝隊長として大活躍しております。

トラピスト修道院へ続くポプラ並木をイメージした大きな柱が特徴的な新駅駅舎も、外観はほぼ完成し、北斗市の新しいランドマークとなるその姿をご覧いただけますし、早ければ年内に大野平野を試運転走行する新幹線の姿も見ることができます。

東京北斗会の皆様には、新幹線開業に向けて活気あふれるまちづくりを展開しているふるさと北斗に、ご家族やご友人をお誘いあわせの上、ぜひともお越しいただき、新たな北斗市の魅力をご堪能いただくとともに、今後とも、ふるさとの応援団として、さまざまな場面において、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、東京北斗会のますますのご繁栄と会員皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げまして、お祝いのご挨拶といたします。

議会議長挨拶

祝 東京北斗会創立二〇周年 ―永遠の繁栄を―

北斗市議会議長
池田　達雄

東京北斗会創立二〇周年の記念すべき節目にあたり、北斗市議会を代表し心よりお祝いを申し上げたいと存じます。

現在の「東京北斗会」の前身である東京上磯会は、平成七年二月に、故郷を同じくする会員相互の交流と親睦をはかり、併せて故郷の限りない発展に寄与することを目的として産声をあげました。そして、大野町との合併を経て七年目にあたる昨年の総会において「東京北斗会」と改称されました。

私事ではございますが、私の長女が今年成人式に臨みました。式典での娘の凛とした晴れ姿を見るに、これまでの二〇年間を振り返り感慨に浸ったものでございます。

このときの思いというのは、まさに創立二〇周年を迎えられた東京北斗会会員の皆様も同じではなかろうと思っております。

この二〇年間、初代会長の相馬正樹さんをはじめとした歴代の会長諸氏、そして、その方々を支えてこられました役員並びに会員の皆様の計り知れないご労苦に対しまして、深く敬意を表するものでございます。

今、北斗市は変革の時を迎えつつあります。北斗市誕生から一〇周年の節目となる平成28年早春の頃には、北斗市民はもとより五五〇万道民の悲願でもあります北海道新幹線が開業いたします。このことは、遠く故郷を離れ首都圏に住む会員の皆様にとっては、この上ない大きな喜びであろうと拝察いたします。

まさに故郷を近くに感じることができる瞬間が刻一刻と時を刻んでおります。

現在、北斗市では、開業に向け鋭意建設工事がその進捗の度合いを高めており、私もその状況を見るたびに期待に心が踊る思いがいたします。

しかし、それと同時に、北海道新幹線開業というこの千載一遇の機会を如何にして我が北斗市の振興発展に繋げていくかということが、市並びに市議会に課せられた大きな課題でもあります。

私ども市議会も、市と共に自己犠牲を厭わない事で偉業を成し遂げるといった気概を持ち、事に当たってまいりたいと考えておりますので、東京北斗会の会員の皆様におかれましても、今後とも故郷の応援団として、さまざまな場面においてお力添えを賜りますようお願いを申し上げたいと存じます。

むすびにあたり、東京北斗会のますますのご繁栄と会員の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。

しだれ桜

北斗市関係挨拶

東京北斗会創立二〇周年を祝して

北斗市商工会会長　宮崎　高志

東京北斗会が創立20周年の記念すべき年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。

貴会の今日に至るまでの活動につきましては、平成七年、東京上磯会として創立以来、様々な形で北斗市に対する応援を頂き心から感謝申し上げます。

記念すべき節目を迎えるにあたり、今日まで、貴会の基礎を築き上げてこられました歴代会長をはじめ役員、会員の皆様の献身的なご努力に対し、深く敬意を表するものでございます。

わが国経済は少子高齢社会に加え、人口減少時代が到来し、国民生活を支える社会保障制度や税制度をはじめ、さまざまな分野での制度変革が進められており、大きな転換期を迎えております。政府が進める一連の経済政策への期待感などから、株価の上昇や一部企業で経営改善などの動きが見られ、景気は緩やかな持ち直しの動きを見せているといわれておりますが、北海道においては燃料や各種資材の価格高騰などの影響もあり、さらに厳しい環境にあると感じております。当商工会においても、昭和三十六年に発足以来五十三年を経過し、平成十八年に大野町商工会と上磯町商工会が合併して以来、八年が過ぎようとしており、地域経済団体として会員及び地域社会からの多様化するニーズへの対応が求められてきております。

このような状況のもと、明るい話題としていよいよ北海道新幹線が開業致します。当商工会といたしましても大きなビジネスチャンスと捉え、新駅の活用など検討しております。

東京北斗会の皆様にはこれまでも様々な形で「ふるさと北斗」を気にかけ、応援いただいているところですが、今後さらに北斗市応援団長の意気込みをもって「ふるさと納税」の活用など、さらなるご支援をお願いいたします。

皆さまの「ふるさと」である北斗市もこの二〇年の間に大きく変貌を遂げておりますが、当別のトラピスト修道院、谷好のセメント工場や国道から見える函館湾の風景など、今でも当時と変わらないものとして地域に愛されておりますので、「ふるさと訪問」等も企画していただきたい思っております。

わたくし自身、毎年総会にお招きいただき、会員の皆様との懇親を深める機会を得ておりますが、いつも皆様の活力には感心しているとともに、地元にいる者として皆様の期待に添うよう努力しなければならないと思っております。

東京上磯会として発足し、町村合併を機に大野町の方も含めることとなった東京北斗会ですが、この二〇周年を大きな節目として、これからも人と人とのつながりを大切にして一層のご発展を遂げられますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、お祝いのことばといたします。

北海道新聞　日本経済新聞

有限会社　**宮崎新聞販売所**

代表取締役　宮崎　高志

住所　：北斗市飯生 1-12-1

TEL　：0138-73-2228

0120-09-2227

北斗市商工会

会　長　宮崎　高志

副会長　渡辺　晃男　長川　勉

住所　：北斗市飯生 3-4-1

TEL　：0138-73-2408

FAX　：0138-73-2474

http://www5.ncv.ne.jp/ ~aid-03

北斗市関係挨拶

創立二〇周年を祝し、さらなる発展を

北斗市観光協会会長　佐々木博史

東京北斗会創立二〇周年を迎え、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

北斗市の観光事業につきましては立ち後れ、従来、後進地域のイメージがつきまとっておりましたが、平成二十四年、北斗市において「観光振興元年」として観光振興を強力に打ち出し、これに呼応して当観光協会事業も大幅な事業増加となっております。

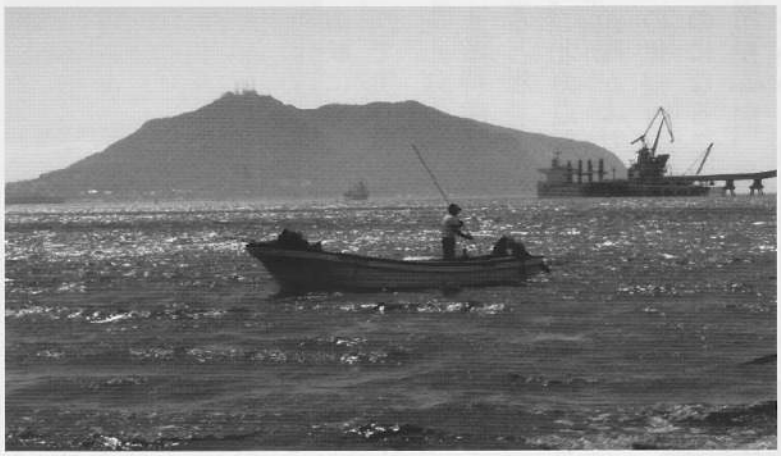
今年で三年目となった「北斗桜回廊」と銘打った市内のさくら名所の夜間ライトアップも今まで実施していた法亀寺のしだれ桜、大野川沿いの桜並木のほか、本年は戸切地陣屋の桜のトンネルも区域に含め実施したところ、来場者も一〇万人を数えることできました。

また本年デビューを飾った北斗市の公式キャラクター「ずーしーほっきー」も全国的な話題となっております。今後はこの人気を経済効果に結びつけて行かなければなりません。

開業まであと二年を切った北海道新幹線では皆様にご心配をかけておりました駅名も、平成二十六年六月十一日ようやく「新函館北斗」駅として決定いたしましたので、今後この駅名をより一層アピールして行きます。当観光協会も本年任意団体から法人化に移行するとともに体制を強化し、さらなる飛躍を目指しているところですが「北斗市」としての知名度がまだまだ低く、観光振興を進めるうえで苦労しているところです。

日本の中心地を生活基盤としている東京北斗会の皆様におかれましては、会員の皆様一人一人が北斗市の観光大使として大いに北斗市の名前をPRしていただくとともに「北斗がんばれ！」という言葉を発信し、応援いただきますようお願い申し上げます。

終わりに、東京北斗会のますますのご発展と、会員皆様のご健勝並びにご多幸をお祈り申し上げます。



ホッキ突き

北斗市観光協会

会　長　佐々木　博史

他・役員一同

住所　：北斗市飯生 3-4-1（北斗市商工会内）

TEL　：0138-73-2408

http://www5.ncv.ne.jp/ ~aid-03

和菓子・洋菓子（ジョリ・クレール）

有限会社　**末廣軒**

代表取締役　　佐々木　博史

住所　：北斗市中央 2-1-4

TEL　：0138-73-3122

FAX　：0138-73-4013

http://www.hokuto-jolicreer.com/

北斗市関係挨拶

東京北斗会創立二〇周年を祝して

北斗市名誉市民
前北斗市長　海老澤順三

このたび東京北斗会が創立二〇周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

東京北斗会の前身であります東京上磯会は、平成七年、首都圏に在住する上磯町の出身者やゆかりのある方々が、会員相互の交流を図り、親睦を深めながら、ふるさとの発展に寄与することを目的に設立され、これまで、ふるさと北斗をこよなく愛し、様々な場面でふるさとのためにご尽力いただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

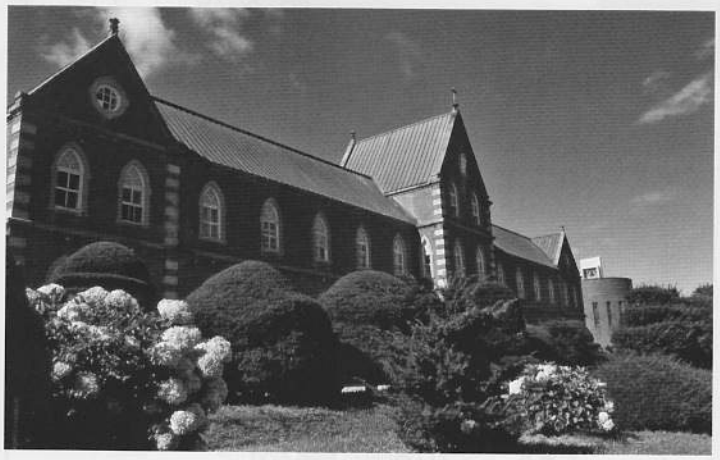
北斗市の誕生から、早いもので丸八年が過ぎ、九年目を迎えておりますが、私は当時、初代北斗市長として、市民の融合、融和を一番大切に思い、力を注いで取り組んで参りました。この融合、融和というものは、ただ単に同化して、一体となればよいというものではありません。上磯、大野の両町は、お互いに長い歴史を刻み、育まれてきました伝統や地域特性などといったものがありますが、これを尊重しあうことによって、まちづくりに素晴らしい発想が生まれ、新たな可能性を生み出す原動力になるという思いがあったからでございます。

お陰様をもちまして、市民の融合、融和は順調に進展し、確かな未来を次世代に引き継いで行こうという思いや〝市民が主役のまちづくり〟という私の政治理念が、当時、市民の間に着実に根付いたことに、大変嬉しく、心強く感じたところでございました。

現在、北斗市は、平成二十七年度末の北海道新幹線開業に向け、高谷市長を先頭に、全市をあげて新幹線時代にふさわしい魅力あるまちづくりを進めております。

北斗市には、荘厳な佇まいのトラピスト修道院や道南一の眺望が楽しめるきじひき高原など、訪れた観光客の心を満たし、記憶に残る優れた名所が数多く点在しておりますし、資源豊富な津軽海峡に面した前浜で採れるホッキ貝やアサリ貝などの海産物、肥沃で実り豊かな大地が育むトマトや長ネギなどの野菜、良食味米として評価の高い「ふっくりんこ」など、これらの北斗市を代表する特産品は、全国に自慢できる大変すばらしいものばかりであると思っております。

北海道新幹線の開業により、首都圏にお住いの皆様と北斗市の距離がより一層近づくこととなり、皆様にとりましては、北斗への里帰りがより身近なものになることと思います。市民一同、皆様の里帰りを心からお待ちしておりますので、なつかしの名所や特産品をご堪能いただき、東京北斗会の皆様を通して、こうした北斗市の魅力が全国に発信されるようお願い申し上げますとともに、東京北斗会のますますのご発展と会員の皆様のご活躍、ご多幸をお祈り申し上げまして、お祝いのご挨拶といたします。



トラピスト修道院

二〇周年を迎えて

◆副会長　小松　直樹

故郷は遠くにありて思うもの、といつの世もこのフレーズで語られるのが多いが、この頃ではテレビ、インターネット等で世界の地の果ても極近くに感じられる様になり、たかだか七〇〇～八〇〇㎞離れた北斗市の地は極々近いものとなり日帰りコースとなっています。

しかしながら、近いはずの故郷北斗市にもなかなか帰る機会もなくご無沙汰ばかりしていることが多く、上磯の地を離れて早くも五〇年程、現在の地横浜が安住の地となっておりますが、生れ故郷は忘れられない望郷の念を常に掻き立てる存在であるのです。

この頃の世相は誘拐、監禁、殺人と物騒な世の中でもあり、そしてやさしさと思いやりが欠ける殺伐とした都会の人間関係の中で、優しさが体現できる場がふるさと会と言ってもいいと思います。

幼年期、少年期をふるさとで過ごした会員の皆様とお会いし話をしていると、すごく優しい気持ちになり心が和みます。

これから世の中高齢化が益々進む中、ご多分に漏れず当東京北斗会も高齢集団となりつつある状態で、会員も減少傾向にあり、このままでは尻すぼみとなり自然消滅の危機に瀕することへの危惧を持っています。

ふるさと北斗市は北海道新幹線も後1年余で開通の運びとなり、新駅周辺を中心に新しい街つくりが進められており益々発展している中、東京北斗会も今年で二十周年でありますが、なんとしても継続して発展させねばなりません。

一筋の光明もあります。旧大野町出身者の新入会員は若く、会の運営も含め皆さん盛り上げてくれております。

東京上磯会から東京北斗会への改称はいろいろな意見がありましたが、ふるさと会の発展のためには良かったと思っております。

東京北斗会も高齢化と闘いながら、いかに新会員を増やしていけるか、欲を言えばどのように若者を取り込むかそして会をいかに活性化できるか、なかなか解決策はありませんが地道な努力が必要だろうと思っています。

今もそして将来に亘り大きな課題であります。

◆事務局長　坂本東洋志

いつまでも青年と自負していましたが、前期高齢者となり記憶も薄れて来ましたので

この記念すべき会報に当会の発足時代からの思い出の概要を記録として残すことに致しました。

当会は初代会長の相馬正樹氏（故人：当時は東海大学名誉教授）の音頭で平成七年二月に御茶ノ水の「聚楽」で発会式が行われ約百二十名が参集、大変活気のある華やかな船出となりました。

第一回総会・懇親会は同年十月七日に発会式と同じ会場で開催、初代会長に相馬正樹氏が選任され、副会長に小田島二郎氏（故人）と郷内　繁氏（現相談役）が就任致しました。

本総会には故郷の上磯町から町長の海老澤順三氏と役場の職員が参列され盛大な懇親会となりました。

私の出身地である茂辺地からは佐藤金也氏（現在副会長）、加藤和子氏（現幹事）と私の三名が幹事に任命されました。

我々三名は当時四十代後半で役員の中では一番若く、相馬会長の下で活動して来ました。相馬会長は道南会の会員でもあったので、創立間もなく経験の浅い当会は道南会のイベントに合流し、サッポロビール千葉工場の見学、神代植物公園での観梅などで楽しんだ時期もありました。

平成十四年十月の総会で会長が相馬正樹氏から郷内繁氏に代わりました。副会長に宮崎紀夫氏、平野富久子氏（故人）が就任しました。

郷内会長は創立十周年の記念行事として平成十六年十月の総会を「ふるさと訪問ツアー」で行うことを企画致しました。

約七十名が参加し、十月十七日に飛行便で函館空港に到着、バスで七重浜（れいんぼー）に行き、第十回総会を開催、夜は海老澤町長、町会議員、市役所職員の皆様の大歓迎を受けて盛大な晩餐会を行って貰いました。

この晩餐会には日程が上手く合ったのか札幌上磯会のメンバーも一緒でした。

翌日は上磯町の観光名所、茂辺地川の鮭の遡上見学、大沼公園など回り小・中学生時代にタイムスリップし感動しました。

私がこの二十年間で一番思い出に残る大イベントでした。郷内会長体制は平成二十三年まで続きました。郷内会長は各種行事を積極的に行い、当会の運営改革、財政の充実などに注力し、更にはふるさと会連合会の理事として各地区のふるさと会との交流を深め今日の基盤を確立してくれました。

平成二十三年十月の総会で会長が郷内　繁氏から金谷忠勝氏に代わりました。

副会長に佐藤金也氏と小松直樹氏が就任しました。

金谷会長は上磯町が平成十八年に北斗市となったことを機会に当会の名称も「東京北斗会」に変更したいと常々考えていました。

上磯の文字が無くなって会員が減ることを懸念しましたが、ついに決断し平成二十四年十月の総会で承認を得て実現しました。

目下、金谷会長の下で役員が一丸となって新入会員の発掘、特に大野出身者の物色に力を注ぎ、そして会員相互の親睦を図るために懇親行事の企画など努力しているところです。

このたび、二十周年を迎えることになり私としては最初から幹事を行っていることもあり、ここまで続いて来たことに深い喜びを感じております。

今年の総会には昔参加されていた方々がリピーターとしてお元気なお姿を見せてくれることを期待しております。

最後に平成二十八年三月に開通する北海道新幹線に乗って北斗市に行くことを夢見て終わりに致します。

◆会計監査　細川　国勝

私が「東京上磯会」に入会したのが平成十六年の十周年記念を迎える年の夏でした。

この年にふるさと上磯を訪ねる「ふるさと訪問ツアー」があり、十月十七日出発の一泊二日のツアーに参加したのが、つい昨日のように想われます。また。上磯町から北斗市に変わりもう八年が経過しました。

そして、第十八回定時総会にて金谷会長が「東京上磯会」から「東京北斗会」に変更したい旨を説明し満場異議なく承認されたことが強く印象に残っております。

入会後の十年の間には地球温暖化による気温の上昇、東日本大震災の大惨事、更には消費税の引き上げなどがありました。あっと言う間の十年間でした。

再来年の三月には北海道新幹線が北斗市まで開通し、北斗市が更に栄えることを期待しております。

最後に当会も高齢化が進んでおり、総会に参加する会員も減少傾向にありますので、今後新会員を増やすための努力をしていきたいと思います。

◆会計　簡　和弘

当会の発足二〇周年を迎えるに当りこの歴史の中に大変微力ではありますがその一ページに参加した事に大きな喜びを感じる次第です。

又、平成七年度の発足から今日に至るまで当会の発展並びに運営にご尽力されて着ました幹事役員の皆々様には心より感謝申し上げます。

〝上磯弁で喋らないかい！〟の皆様との出会いは平成二十年度第十四回ホテルパシフィック東京三十階で開催されました時が始まりです。以降、毎年行われる総会・懇親会の度に時間を忘れ、わが〝ふるさと〟の想いを子供の様に燥ぎ楽しく交流させて頂き大変嬉しく思います。

さて、わが〝ふるさと〟「東京北斗会」の取り持つ縁とでも言ったら良いのでしょうか、五十数年の半世紀以上も過ぎ去った懐かしい思い出を紹介させて頂きます。

それは当会の事務局長をしております茂辺地出身の坂本東洋志さん（以下坂本氏）と私は昭和二十一年戌年生まれの同級生です。我々が小学校六年生（昭和三十三年）の時に上磯町役場主催第一回少年野球大会が開催されました。当時何チームが出場されたかは残念ながら忘れてしまいましたが、私共の裳朗小学校が優勝し小さな山峡（やまあい）にある裳朗がお祭り騒ぎの様に沸いた事を今も鮮明に記憶に残ってます。なんとこの時の決勝相手が坂本氏の茂辺地小学校であったとは、〝あの時裳朗に敗（や）られたんだよなあー、裳朗の応援団の多かった事・・・・・・・あの時の裳朗のピッチャーがお前さんだったのかあー！〟と二人の会話が弾み心底驚いた次第です。坂本氏は主将でサードを守って居たと言う、まさかこんな身近に当時を知る仲間がそれも決勝戦の相手だったとは夢にも思いませんでした。そしてこの懐かしい出会いの話しに一瞬の内にあの多感だった少年の頃にプレーバックする事が出来ました。

あれから五十数年の歳月が流れ、歳を重ねるごとに〝ふるさと〟を想う心が強く感じる年代になりました。二十年の節目を迎え、更なる二十年に向かって「東京北斗会」は永久に不滅です！を合言葉に皆さんと一緒に歩み進めて行きましょう。

昭和三十六年（一九六一年）に閉校となった思い出多い我が裳朗小学校の校歌を最後に失礼します。

1. 渡島の嶺の山峡に
恵む光の学舎は
水無川のそれのごと
清く育むわが裳朗
繰り返す

2. 高く登れば海見えて
共に励まんわが友の
清き血潮のそれのごと
ゆかしく仰ぐわが裳朗
繰り返す

3. 青き山脈雲流れ
美しきこの大地
若い我らのそれのごと
今こそ学ばんわが裳朗
繰り返す

随想・随筆

横浜マラソンを走ろう

佐藤　金也
（横浜市港南区在住）

東京湾からの横なぐりの雨　風もあり視界も悪し。合羽を着てのマラソンは初めての体験である。平成二十六年三月二日　第三十二回三浦国際市民マラソンでの情景です。

当日は気温も低く七度、気象条件の悪いなか何とか無事完走し昨年の記録と比較してみたら何と今年の方が三秒タイムが良いではないか・・・雨の中、しかも合羽を着て・・・？

マラソンへのきっかけは五年ほど前に通勤途中時異変を感じ病院で見てもらったところ狭心症と診断されカテーテルにて施術した。ステントを埋め込んでいるが今のところ異常ないので感謝している。ちょうどその頃、節目の六十五才になるので、これを機に何か運動でも始めよう。記念に残る適当な運動はないかと考え〝マラソンを走ろう〟と決めた。狭心症のあとでもあり心臓に負担がかかると家族からはブーイング。当方としても過去にマラソン経験はなく日頃から何もしていない体は運動をしないことに慣れている。

まずは運動に適した状態へ体を切り替えることが大切であると考え、取りあえず表へ出てストッレチ、歩く等と徐々に体をなじませていった。

毎日出来るものから少しずつ体を動かす機会を増やし、散歩とストッレチ等を好きに組み合わせて体に軽い刺激を送り続ける。しかし、当然ながら最初は楽ではない。

〝はあはあ〟〝ぜいぜい〟合わせて〝ヒイヒイ〟言いながら走り続ける。だが走ったあとの爽快感、完走した時の満足感、体に残る疲労感は心地良い。忙しい日常生活につきもののストレスも解消される。

現在は三月三浦国際市民マラソン十一月よこすかシーサイドマラソンの二大会に参加して自分自身の健康を実感しながら楽しんでいる。当面の目標は来年実施される〝よこはまマラソン〟にチャレンジすることである。横浜市内のみなとみらい、山下公園、元町等の中心街を駆け抜けるコースは〝新しい体験〟を文字どおり体で味わってみたい。

また多くのジョガーと共に走る楽しさは格別である。

旧大野出身者の参加のお願い

米田　正彦
（東京都福生市在住）

東京北斗会創立二十周年おめでとうございます。

昨年から旧大野の幹事として二ヶ月に一度の幹事会に参加しており、幹事の仕事にようやく慣れてきたこのごろです。

きっかけは、玉川カルテットライブショーを東中野に見に行った時に、メンバーの上原和さん（旧大野）から佐藤則道幹事を紹介して頂き、お誘いを受け入会した次第です。同席していた同級生の寺田光世さんも入会しました。

東京北斗会は、以前は東京上磯会の名称でした。町の合併を期に旧大野出身者も参加してもらうことになり北斗会となったそうです。旧大野出身者の入会は一昨年前からなのでまだ会員は八名と非常に少ない状況です。大野地区の会員を増やすべく声を掛けはじめていますが、なにぶん誰が東京に居るのかわからない状況です。東京近郊に居る旧大野出身者がいれば是非情報をお願いいたします。会員は、北斗市から「広報ほくと」が毎月自宅に郵送されてきますので北斗の状況が結構わかります。特に平成二十八年三月の新幹線開

業に向けた新駅の情報や町作りを読むことができ、市の発展が楽しみになります。

さて、私は大野町川原町（本町）と呼ばれていた大野川に近い場所のかや葺き屋根の家で育ちました。昭和五十一年の二十才の時に東京の会社に就職して三十二年間のサラリーマン生活を早期退職で辞めて、その後他の会社に勤めながら自分の会社も興しています。

せせらぎ温泉入り口の角は、かつてかや葺き屋根だった実家の場所であり、実兄夫婦が「味彩」の店を切り盛りしています。

私の今年のビッグイベントは、七月と八月の二ヶ月をかけて、東京から鳥取県境港に車で行き、フェリーに車を積み込んで韓国に寄港後、ロシアのウラジオストックに入港し車を降ろし、ハバロフスク経由で大陸横断をしてモスクワ、国境を越えてフィンランド、スエーデン、デンマーク、ドイツ、オランダ、ベルギー、フランス、そして最終地は留学中の息子が居るイギリスまで行く予定です。運転は私と知人の二人だけです。走行距離は約一五〇〇〇㎞にもなります。あっちこっち見て楽しんできます。

皆様どうぞよろしくお願いします。

第二の故郷　上磯

廣田　明子
（千葉県市原市在住）

時は昭和。上磯町昭和町セメント会社のハーモニカ長屋から公園通りに移り住んだ祖母からの手紙は、昭和五十年五月一日の消印でした。私が社会人一年生になった年です。

「先輩の方々に可愛がって頂く様なやさしい素直な後輩社員になる事を、心から祈っております。」「あなたの花嫁姿を見るのを楽しみにして居ります。」（一部抜粋・・・）祖母は、この言葉を残し数日後、帰らぬ人となりました。セピア色に染まった封筒にそっと顔を寄せると祖母の匂いがし、私の宝物になっております。大好きな祖母の元へ、もの心付く頃から足繁く通っていました。オレンジ色の気動車に乗り、夏には車窓から線路際に咲くピンク色の背高いコケコッコウ花が見えてくると上磯駅が近づいてくるのが分かり、胸が躍ったのが今も甦ってきます。祖母が玄関で「いらっしゃあ～い」と、満面の笑みで出迎えてくれました。子供心に「あぁ帰ってきた～。」と言う安堵感があり、今でも脳裏に鮮明に残っています。上磯は、私の第二のふるさとです。

私の母は現在八十一歳。上磯町役場勤務を経て、結婚のため昭和三十年上磯を離れ、十一年前に千葉へ移住、そして五年前母と私は、東京上磯会（現在「東京北斗会」）に入会させていただきました。

初めて総会に出席した二人は、緊張した面持ちで足を運んだものでした。会員の方々と殆ど初対面の母は、なぜか初めてお会いした感じがしなく、弾む会話の中での上磯弁、懐かしい風景、町並み、クラスメートの顔々が浮かび、タイムスリップしながらの時は、心と心の距離は縮まり、またたく間に打ち解けたとの事でした。

母にとって、時を刻む流れの中で、会の行事は何ものにも替えがたい大切なひとときと思われます。母いわく、「生きている限り出席したい」と、目を輝かせ、二年後の新幹線開通、会の方々と上磯へ行くことを心待ちにしております。

殺伐としたコンクリートビル群の都会での仕事・生活。それぞれの人が故郷上磯を愛し、また同郷の仲間を愛し、私達を包んでくれるほっこりと温かい癒しの時間。すなわち東京北斗会です。この二十年間の会は、幹事さん方々のご苦労があったからこそ存続している事と思います。心からの感謝と共に、〝ふるさとは一緒〟。東京北斗会が末永く続く事を切に願っております。

伊豆大島の三原山を散策して

齋藤　清信
（横浜市港南区在住）

寒い冬のある日、三原山へ散策に行く為に、北風が吹く冷たい東京の竹芝桟橋に立ち竦んでいた。

やがて朝靄のなかから、本日、乗船する、高速ジェット船が着岸した。八時四十分出港の高速船は定時に出港した。時速八十キロのスピードで、東京湾航路を一路伊豆大島へ白波を立て走った。一時間四十分程の航海で、伊豆大島の岡田港に着岸した。東京から百二十キロの太平洋上に浮かぶ伊豆諸島最大の島で、面積は九十一平方キロ、人口は昭和二十七年頃には一万三千人を数えましたが、現在は観光の停滞で八三〇〇人となっている。全島至る所に咲く椿は、大島の象徴する木として昭和四十三年に制定され、椿油や高級炭材で知られ、椿は島の情緒を伝えアンコ姿は島のシンボルとなっている。島の天候は海流の影響が受けやすく温暖多湿な海洋性気候で、冬から春先の気候は強風と多雨をもたらしています。島に着いた日は晴天でしたが、山の裾野にある宿は、深夜から強風と雨で寝付かれなかったが、朝の太陽の輝き、そして窓から眺める三原山の展望は実に素

晴しい姿に暫し我を忘れて眺めていました。

早々と朝食を済ませ、宿で作ってもらった「おにぎり」背負い、早々と宿を後にした。

登山道を求め歩き始めたが見つからない。ようやく、裏砂漠の道に入った。深夜の雨でぬかるみの道かと思ったが、噴石が堆積した道で水溜りは殆んどなかった。やがて視界が暗くなり、光が差し込んで来るだけで、外景は全く見えなくなった。ザクザク歩く足音、風で揺れる枝の音は、樹海に吸い込まれて、独特な雰囲気が広がっている。樹海を抜けるとススキの原野と変わり、風になびく穂波は、荒波の海原に呈している。国土地理院の火山観測地点の道を過ぎると。まもなく溶岩が流れた山道となる。周囲は巨大な溶岩に埋もれた荒涼とした原野が延々と広がっている。山の中腹まで登ると、頂上から霧が滝のように流れきて、全く前進が出来ない。霧の流れの合間をぬって、ようやく山頂に到着した。頂上からの眺めは黒い溶岩で襲われた風景が延々と続いている。

三原山は昭和六十一年十一月噴火して出来た噴火口は赤褐色の墳壁で、直径三百メートル、深さ二百メートル もあって、強風で噴火口に飛ばされそうになって、その迫力には恐怖感を感じながら、夕日が沈む砂漠の道を通って無事に家路に着きました。

三原山

茂辺地を離れて四十二年
還暦を迎えて

池田喜久雄
（千葉市若葉区在住）

昨年還暦を迎えましたので十八歳で茂辺地を離れて、はや四十二年の月日が流れました。現在茂辺地は父が他界し、母も関東に来ているので家と親戚がいるだけとなっています。ただ墓参りがある為、お盆の頃には両親が元気な頃も含め、毎年茂辺地に帰省しています。最近は高速道路もでき、風景も変化してきています。高速での上磯から茂辺地の降り口にいくところからの眺めは三方を山に囲まれ、一方は海がみえ、茂辺地全体が見渡せる素晴らしい景観です。

父が絵を描いていた事もあり、小さい頃からいつも近くに画集がありました。家にはラッカーシンナーの匂いがたちこめ、絵の素材となる魚の干したもの、スペインの踊り子人形、デンマークの木靴、アイヌや熊の彫りもの、地来也という凧（地雷也となるのが地来也というところに何か意味ありげ）等いろいろな銘品、珍品がアトリエにありました。大分老朽化していますが、今もそのままにしてあります。

そんな事であなたは絵を描かないのですかとよく聞かれますが、私にとって絵は生活の中に組みこまれており、趣味で描くというイメージはありませんでした。物ごころついた頃から精巧なデッサンや著名な画家の画集をみてましたので、描くというレベルがどの様なものかピンときませんでした。というより普通の人には描けない、単純に私のような凡人には到底無理という感じでした。ただ門前の小僧如く、学校で描かされる絵は陰影を多少強調し、コントラストを考え、人物画などは体の動きを誇張するとそれなりに絵になってるかなと思ってました。そんなで絵への関心は高く、倉敷　大原美術館　上野　西洋美術館　ブリジストン美術館は学生時代に見終わりました。十年前に見た、バルセロナ　ピカソ美術館はピカソの幼少の絵やデッサンが多くあり、バルセロナの路地の奥にあり添乗員には訪問を止められましたが素晴らしかったです。

祝
東京北斗会20周年
東京北斗会
相談役　郷内　繁
東京都港区高輪 3-10-18-601
tel 03-5424-0002

話は変わりますが、私は二十二歳からサラリーマンとして全国を転々としましたので各地での飲食の情報も少し述べたいと思います。勤務は札幌を振り出しに釧路、東京、福岡、仙台、青森、千葉、東京、横浜、名古屋、横浜と巡り、平成二〇年から再々度の東京勤務となり現在に至ってます。営業である為、福岡にいた時は長崎、佐世保、佐賀も巡りました。その為繁華街は、北から札幌薄野、青森本町、弘前鍛冶町、仙台国分町、千葉栄町、東京歌舞伎町、横浜関内、伊勢崎町　名古屋錦、栄町、博多中洲、長崎丸山町と巡りました。紙面の都合もあり、一部だけ書きます。

・長崎／こじんまりした中華街があり、長崎チャンポン等本場の味が楽しめる。その中でも「江山楼」のチャーハンは絶品である。

・福岡／「稚加栄」魚がいる生簀が半端でなく大きい、東京からの人を案内するとまずその生簀に驚く、生簀の周りを囲って座敷があり、広々として仲居さんが皆着物でありその雰囲気に皆感激します。その割には価格も手頃で営業でよく使いました。

・仙台／牛タンがおいしいですが、スープが東京とは違います。また国分町は道路脇に女性が並びますが、価格的には良心的な店が多いです。但し昨今は震災需要で相当沸いているようです。

・弘前／この町は人口の割りには大学が多く、鍛冶町には女子学生アルバイトが多数います。

・名古屋／錦、栄町は日本人の店もさることながら女子大小路には多国籍な店がいろいろあり、自分好みの店を選べる楽しみがあります。

・横浜／関内は皆さんご存知中華街です。ここが他の中華店と違うのは、牛肉、豚肉、おかゆ等の煮込みに時間をたっぷりかける事です。もちろん他の料理も他と比較しおいしいです。ギョーザなどは個人的感覚ですが、宇都宮等よりおいしいと思います。ただここで当たり外れがあるのが、食べ放題の店です。基本、料理に自信ない為食べ放題と価格で客寄せする店もあり、中華街で食べたのに全然おいしくなかったという人は、ほとんどが食べ放題の店にいった人です。おいしい店として、謝甜記、おかゆがメインで、二号店はからあげ、エビチリもおいしくお薦めです。広東飯店は牛バラ、ギョーザがお薦めです。他いろいろありますが紙面の都合により要望あれば個人的にお話します。

いろいろと脈絡なく書きましたが、東京北斗会20周年を期として今後北斗会が北斗市の東京でのアンテナショップ的な役割ができる様微力ながら努力していきたいと考えています。

音楽っていいですね

池田　均
（東京都荒川区在住）

私は昭和三十六年四月に上磯小学校に入学しました。

一年の担任の先生は池上伸策先生で、いつも明るく二年まで担任でした。三年、四年は平沼吉太郎先生が担任でした。この学年は朝から歌を歌う楽しい学年で四年生の時に上磯小学校を代表して谷川小学校で学年合唱をしました。五年、六年の担任の先生は、福島康先生でした。先生も音楽が大好きでよく歌いました。この時に東京北斗会の事務局担当の外山幸雄さんとは同級生で私と二人で二部合唱の曲を歌ったこともありました。

とても良い思い出です。福島先生は定年退職後、東京に来られて、私たちはここ数年毎年一月四日に先生のご自宅を訪問し新年会をしています。小学校時代の恩師と今このように交流できることを大変幸せに思います。先生がいつまでもお元気でいてほしいと願っています。

さて、この五、六年のクラスでは器楽合奏をしました。この時、私は小太鼓を担当しましたが、これ以来太鼓との付き合いが始まり、中学校、高校でも吹奏学部に所属し打楽器担当で、朝から晩まで音楽に浸っていました。高校を卒業し仙台の大学に行きましたが、隣の大学にオーケストラ（略してオケ）があり、そこに高校の先輩がいたので入団させてもらいました。

この大学のオケはレベルが高く、故山田一雄氏が客演で指揮をすることもあり、田舎者の私はハラハ

ラ、ドキドキでティンパニーを叩きました。
大学卒業後、仕事の関係で上京し、昭和五七年九月からは中学校の数学の教師となりました。
現在、墨田区立文化中学校に赴任し、地域を巻き込んでの音楽祭を毎年一月末に開催しています。また、吹奏楽部の顧問として生徒を指導することがありますが、今までの経験を活かして子供たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝えて行ければと思います。
音楽っていいですね。

想い出（田植え）

澤口　豊
（東京都荒川区在住）

私が生まれ育った旧大野町は北海道水田発祥の地、大野平野一帯に広がる田園地帯です。
起業誘致で工場や会社も出来、新幹線の開通を控え、町は大きく変わりました。
北海道立道南農業試験場のある細入地区の農家の二男に生まれ、小学校・中学校・高校と大野町で育ち、高校卒業後、夢と憧れを抱いて、青函連絡船と急行列車を乗り継いで上京したのが昭和44年3月、東京オリンピックが終わってから5年が経ち、翌年（昭和45年）は大阪万博、高度成長期中の真只中、都心ではあちこちで地下鉄・道路工事、京浜工業地帯から黒煙がもくもくと上り、光化学スモッグで青空は見えることがありませんでした。海や川は工業排水や生活排水で汚染され、ヘドロ状態となって劣悪な環境でした。
ホテルに夢と将来性を感じ、観光専門学校で学び、プリンスホテルに就職して46年、現在も、食物アレルギーのチェック等、食品の安全に関する仕事をしています。勤務先はサンシャインシティプリンスホテル（東京都豊島区）です。
趣味は歌が好きで、ＮＰＯ法人の合唱隊「AVEREGE60」に所属、月に一度、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）での合唱練習会、終わった後は新宿へ繰り出しカラオケとお酒を楽しんでいます。今年1月白鷺ホーム（東京都練馬区）、六月には、アーブル・ヴェール（神奈川県三浦市）という老人ホームを慰問して発表会を行っています。東日本大震災被災地へということで日本赤十字社を通じて寄付活動も行っています。
東京北斗会入会のきっかけは、昨年五月、同級生の中井氏（北斗市議会議員）が、お嬢様のご婚礼で上京され、宿泊先の品川プリンスホテルにて食事を共にした際、入会を勧められ、新たな出会いが楽しみで、妻（松前町松城出身）共々入会させて頂きました。
四月二十日（一泊二日）に開催された、二〇周年記念被災地応援ツアー（福島県いわき市）には夫婦で参加することができ、初参加でしたが、東京北斗会の皆様の温かいご厚情により、楽しい旅行をすることが出来ました。

子供の頃の想い出として深く印象にあるのは、小学校の何年生だったか？　作文（田植え）がＮＨＫのコンクールで入賞したということで、ラジオで放送されることになり、お昼の休憩時間だったと思いますが、放送された当日は恥ずかしくて逃げ出したく、入賞したのが恨めしく思った記憶が強く残っています。当時の田植えは手作業で、時期になると「結いっこ」と言って親戚・近所総動員で助け合って作業し、休憩では「こびり」と言って、菓子パンとジュースが出ていたのが懐かしく思い出されます。当時は農家の子供が多かったので、学校で田植え休みというのがあり、農家以外の子供たちはとても喜んでいるのを見て、羨ましいなと子供心に感じていたことを思いだします。
海洋が中心の上磯町と田園が中心の大野町とが合体してできた北斗市、今後の益々の発展と東京北斗会の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げますと共に、上磯町が母体でできた東京北斗会ですが、大野町の会員の拡大にも微力ながら尽力していきたいと思っています。

〈開業７年半〉
技術コンサルタント業
外山技術士事務所
所長　外山　幸雄
［東京北斗会事務局］
神奈川県茅ヶ崎市今宿 580-9
tel & fax　0467-88-1684
e-mail yuksoto@jcom.home.ne.jp
http://www.yuksoto.sakura.ne.jp/

ふる里によせて

伊藤　雪雄
（埼玉県春日部市在住）

ふる里上磯（今も北斗市より〝かみいそ〟の耳の響きがしっくりします。）出身者の集いがあると知らせてくれたのは、上磯中の同級生で当会幹事の斉藤清信さんでした。

弟を誘って初めて参加してから八年経ち、そして今年は二十周年記念としての福島の三春滝桜とフラガールショーの見学バス旅行に参加、同郷の約二十二人の方々と二日間、軽妙さ、軽やかさはないが、朴とつにしてゆったり話す北斗弁（？）でふるさのとの事をおしゃべり、語り合い、いわゆる啄木のふる里の訛懐かしにどっぷり、しっかり浸かり楽しみました。

その中で旅行を企画された小松副会長から二十周年記念号へ何か書いて欲しいとの事で尻込みする気持ちを奮い立たせて机に向かっています。

福島旅行は天候に恵まれ、三春の滝桜は満開で約二五メートルに広がる枝から薄紅色の花が流れ落ちるように咲き誇る姿は桜の滝そのもの。

根尾谷淡墨桜、山高神代桜と共に日本三大桜として千年以上の生命力に感動しました。また、ハワイアンショーもハワイで見るフラダンスショーよりきらびやかで楽しみました。

現役時代は上磯に帰る機会はめったにないまま（皆さんと同様に冠婚葬祭時のみ）でしたがリタイヤーして一〇余年、年二回はクラス会や墓参で帰る度に、ふる里の山並み、街並みそしてふっと潮風を感じる空気に触れる幸せに浸っています。

新幹線が八戸そして新青森まで運行されるようになって近年はもっぱらＪＲファンです。

春日部に住んでいるので大宮から「はやぶさ」に乗り仙台、盛岡のみ停車し、青森で「白鳥」に乗り継いで青函トンネルをくぐり抜けて五時間（北海道まで新幹線が延伸時は四時間に）、木古内辺りからキラキラまぶしい函館湾に函館山（臥牛山と言われているが、私はシロナガス鯨がゆったり海上に姿を浮かべたように感じる）が進行右側に見え始める頃を見計らって、ビール・駅弁を味わいながら函館山がその姿形を徐々にずんぐり、丸っこくうづくまってくる変化（シロナガスからマッコー鯨に）を眺めます。

この景色を味わうために私はいつも右窓側に席をとります。関東とどこか違う屋根の形、家並に郷愁を留めているうちに当別、茂辺地のトンネルを過ぎる。富川、谷好そしてセメント工場群が見えてくると上磯の中心部です。小学校、中学校の頃は大きく見えた煙突・工場建屋、ロータリーキルンも今はさほどでもない。年のせいか、時のなせるマジックか。

そして青空と白い雲の天気の良い時は左に駒ヶ岳の秀稜線が目に入ってくる。駒ヶ岳の名を持つ名峰は木曽駒、会津駒、甲斐駒などがあるがこの位置、方角から駒ヶ岳（渡島駒？）は、首から立て髪、馬の背を滑らかに、しなやかに流れる稜線は美しく目に焼き付いている。二度登らしてもらいました。まさにふる里旅行のハイライトです。

先月五月十二日、今年初めての上磯旅行をして来ましたが、たまたまその前日の十一日がＪＲ江差線運行最終日で木古内―江差（四十二・一キロ）間が廃止された日で、函館駅二階コーナーで沿線各駅の由来や特徴の説明展示パネルがあり、大正二年九月に五稜郭―上磯線が開業、大正十一年にはセメント工場からセメントを函館まで運んだと記されており、昭和十一年江差線七十九・九キロが開業し、今年五月十一日に七十七年間の営業に終止符をうった旨の記念展がありました。

上磯を巣立って五十有余年、振り返ることが時々あり、その回顧頻度が増してくると彼岸から河岸へと近づいているとか・・・・。

上磯小、中学校時代は春は清川陣屋、秋は大沼公園への遠足、上磯斉藤育英会の奨学金で勉強が続けられたこと、八幡、稲荷、秋葉神社のお祭り、裏朗方面での山ブドー、コクワ、ふき、ぜんまい、わらび採りそして海でのホッキ採りと次から次と思い出が連なります。

そうそう、小・中学校一緒に過ごした級友で卒業以来一度も再会していないクラスメイトにも会ってみたいし、それまでは河岸への道のりは遠いのでは・・・？

そう決め込んで今は週に二～三度のテニスと水泳、元高校教師の碁仇と碁打ち、たまに旅行といった生活を送っています。

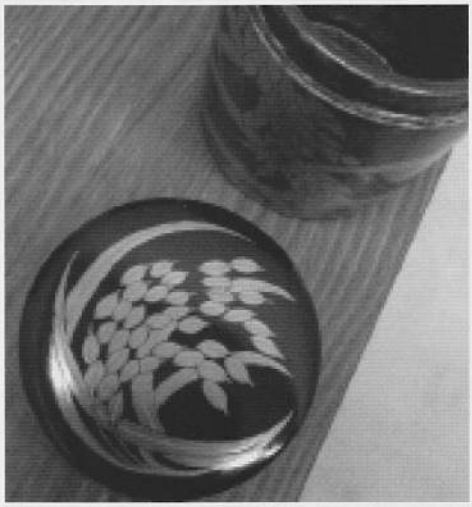
〈創立30周年〉
総合不動産業
三蔵住建株式会社
取締役社長　佐藤　則道
［東京北斗会事務局］
東京都新宿区西新宿 7-16-14
〒160-0023 ミクラ西新宿ビル４階
tel 03-3362-2121
fax 03-3362-2051

蒔絵教室にて

石川　誠一
（千葉県船橋市在住）

お昼になりました。12、3人でテーブルを囲み、先生の〝いただきます！〟で昼食が始まります。毎回の教室でのお昼の風景です。その料理は、全て先生の手作りでタダ。しかも、デラックスでヴォリュームたっぷり。又、盛器も立派なものばかりです。そんなランチタイムに惹かれて教室に入れていただいた訳ではないんですが、教室の魅力の一つではありました。それが、九年程も前の話です。（現在は先生の糖尿病の状態を心配し、昼食の提供は取り止めています。）

当時、自宅のある船橋から川越に移転した会社迄、片道三時間を掛けての通勤が六年目になり、いささか疲れて来て、丁度五十七才での早期退職制度の歳となったので、早速手を上げました。退職後は、何か形に残る創作物の製作をしたいと考えていましたが、ある日の新聞で漆塗りのお風呂を楽しんでる方の記事を読み興味をそそられ、通勤帰りに池袋の東急ハンズで見つけたのが漆の器製作の入門書でした。その本に漆教室の紹介があり、小林宮子蒔絵教室も載っておりました。個人での教室は小林教室だけで、そこに惹かれ早速電話。見学にお出でと言われ、その日の内に試し描きし、即入門させていただき、小林先生との関りが始まったのです。先生の人柄と教室の良い雰囲気に強く惹かれた結果です。小林宮子先生は、昭和四年生れで今年八十五才になられます。色々と大病もされましたが、いつも病気を跳ね返し元気はつらつ、三十人もの生徒を抱える教室で指導をされておられます。数少ない1級蒔絵技能士の資格を持ち、日本画の素養もあり、書も達筆、又、以前は料理教室もされて、キッチンは本格的なプロ仕様です。蒔絵は、遅くに始められたとのことですが、キャリア四十五年になろうかとの大ベテラン。知らないことがない、全く頼れる先生です。小林教室の魅力は沢山ありますが、十時から夕方5時までの一日、じっくりと作業出来ること、何よりも各自の製作が自由なこと。つまり、皆各々のものを勝手にやっていいこと、です。これは、生徒にとっては大きな魅力ですが、先生にすればとっても大変なことになります。各自の作業を瞬時に見分け、適切にアドバイスしていかなければなりません。人数が多いですから、色んな年齢、キャリア、性格等々の生徒です。器用で作業がとても素早い人、手のゆっくりな人。様々です。生徒各々の進行具合に合わせ、的確に指導してくれます。又、先生自身の作品製作も同時に教室でされて、上手くいっても失敗でも、生徒にも見せる考えです。この小林先生の懐の深い大きな人間力も又魅力です。教室は田園調布の閑静な住宅街にあり、自宅の一部を開放したものです。これまで、毎年のように日本橋三越と横浜そごうとで交互に教室展が開催されて来ました。デパートの美術画廊での教室展は、仲々ないことです。目標を設けて、製作に意欲を持たす先生の方針と力のお陰です。



ご存知の通り、蒔絵は漆の器物を華やかに彩る装飾の技法の一つをいいます。他に、螺鈿や沈金という加飾の技法がありますが、蒔絵は漆で描いた文様の上に金粉、銀粉を蒔いて華やかな絵模様を生み出す技法です。蒔絵の仕上げ迄は、大変多くの工程を経ます。大所は、図案を考え、器物に写し、漆で塗った所に金粉銀粉を蒔き、室（湿度と温度が必要）で乾かし、漆を摺り込み、粉を固着させ、研いで金銀の輝きを出し、更に全体を磨いて漆面と金属との艶を整えて完成、となります。教室では、何せ先生がおおらかですから、製作対象器物は何でもありです。お盆、重箱、皿等の伝統的なものから琥珀等の天然石や象牙、木製漆塗りのアクセサリーと様々ですが、自分でどっかから手に入れたものでも良く、大概は先生が産地業者からまとめ買いし、材料も道具も全て原価で分けてくれます。それが、結局は一番安く

石ざきホール 北　斗
石ざきホール 七重浜
株式会社 **石崎公益社**
代表取締役　石崎　幸男
住所　：北斗市飯生 1-9-5
TEL　：0138-73-3393
FAX　：0138-73-8020
http://www.coa-plan.net/hakodate/ishizaki/

良質のものなんです。私にとって漆の魅力は、何といってもその黒の透明感と艶です。器物の素材は木・竹・紙等々色々です。阿修羅の仏像は、和紙と麻布を漆で固めたものとは良く知られている所かと思いますが、目下の私の目標の一つは、竹と漆のコラボレーションです。北海道は太い竹がなく、憧れの素材です。何とか納得のいく作品が出来ればと願いつつの作業を続けています。

北海道は、漆器の産地としては聞きません。漆器は遠く奈良の時代から加飾の技法が始まり、江戸期に現在の技法が確立されたものだそうです。そんな伝統工芸だから、歴史の浅い北海道には育っていないものか、隣の青森の津軽塗りが身近に感じる漆器産地ということでしょうか。色々な想いを巡らせ、これからも小林教室で、小林先生や大勢の仲間と一緒に楽しく蒔絵製作に取り組んでいきたいと願っています。

私とお酒の付き合い

中村　紀之
（東京都東大和市在住）

私は、小さい頃体が弱く何時も風邪をひいて、学校を休むことが多かった。

母は病院に行く程ではない場合は、チョコ一杯のまむし酒に少しのお砂糖とお湯を加えて、飲ませてくれた。これは中学卒業まで続いた。

大学に入ってからは、コンパ等で日本酒やウイスキーを飲んでいた。学校を卒業と同時に、大手半導体メーカーに入社し、寮生活が始まる。会社では、仕事の傍ら女子寮生（所謂トランジスタ娘）にNHKの放送教育を教えることになった。この為、私は寮の部屋にTVを用意した。又冬場は寒いので炬燵も用意した。この為か仕事から帰ると、同期の友人たちが私の部屋で酒盛りをしていた。

その内本棚にはウイスキーの瓶が並び、部屋はまるで倶楽部の様になって行った。半導体も、トランジスタからIC、LSI、超LSI時代へと進み、同時に生産拠点が国内から海外工場へと展開して行った。同じ頃韓国、中国もICの生産を行うようになった。此の頃世の中は、ワープロが出回り画面がブラウン管から液晶デスプレイへと変化していった。私は、ほぼ同時期に、液晶検査装置を作る会社に移った。当初、検査装置の営業を担当していたが、装置の開発をするべく青森の工場に転勤となった。ある時風邪をひいて弘前の病院に行ったところ、突然「彼方は膵臓炎です」と言われ、即入院となった。一か月ほど入院したが、同室の同病の人たちと病状が違うので医者に、自分は東京から来ており、近くに大学病院もあるので移りたい、旨を言い帰宅した。日大病院で3年間チェックしていただいたが、膵臓炎ではない事が判明した。その間お酒を飲まなかった為か、半合も飲めなくなった。その後お酒は、量は少ないが日本酒から白ワインへと代わり、最近は赤ワインに凝り、ボトル一本を妻と二人で2日間で飲んでいる。

教えることの原点

井上　豊
（静岡県三島市在住）

教師を生業として四十六年になろうとしている。それ以前即ち学びの時期は十六年である。

この時期薫陶を受けた恩師は六人、即ち担任であった先生方である。

とりわけ二人の先生方については想い出深い。かつて「東京上磯会あるいは私的回想のことなど」という拙稿を数人の方々に送りつけたのであるが、そこにもふれているが、小学校時代の小松邦利先生と中学校時代の佐々陽先生である。

小松先生には五・六年の二年間受け持たれたが、五年のときに、今でいういじめにあったクラスメートのK君のお兄さんが学校にのりこんできた時、先生は毅然として対応し、「私は絶対生徒を守る」と言い切ったのには、未熟ながら深い感銘を受けた。先生が森町の小学校に勤務の時、兄も隣に住んでいて、そこに帰った時、私が先生になったことを知って非常に喜んでくれた。定年近く亡くなられたが奥様からは長く賀状をいただき、又息子さんの一人は公立高校の先生（道内）になられた。

もう一人の恩師の佐々先生は、病気休学して三年に編入された時の担任である。青年将校上がりのその立居振舞いには目を見張るものがあり、とくに歩く時の姿勢の良さも今でもはっきりと思い出すことができる。又その説得力のある話振りには深い感銘を受けた。

函館市内の中学校校長を最後に定年を迎えられたが、間もなく他界された。私が先生になって六年目

の夏、当時鍛神小学校の校長で五稜郭公園の近くの公舎に住んでおられ、そこを訪問した折、自分の子供のように喜んでくれたことを忘れるものではない。亡くなられて七飯町在住の奥様を訪問し思い出を語ったものである。奥様にはその後も非常に気にかけていただき、賀状や手紙をいただいてきたが、三年前に亡くなられたことを身を寄せていた次女の方からの賀状で知り、仏前を送らせていただいた。

恩師は他に、清川陣屋への遠足の時、板チョコをクラス全員にくれて、その甘さにカルチャーショックを受けた阿部園子先生、「おっちょこちょい」のあだ名をつけられた中野先生、地図オタクの私を何とか降参させようと「留辺蘂」という地名で私をうならせた荒木先生、そして、カラオケの定番となった日本の名曲や唱歌を教えてくれた葛西先生、時々思い出すことが多くなった昨今である。

老人の独り言

小埜寺直巳
（茨城県竜ヶ崎市在住）

北斗会の幹事である中村紀之さんから、会報への原稿依頼があった。以前に投稿しているので、断ろうと思ったが、中村さんに迷惑・お手数をかけることになるのと思って、引き受けることにした。しかし、十七年前に定年退職し、毎日が日曜日である小生には、特に書きたいテーマや話題があるわけではない。

安請け合いをしたことを後悔しながら、新聞を眺めていると沖縄県の八重山地方の教科書採択をめぐる記事に目が留まった。記事の内容は、概略、以下の通りである。

八重山地方では中学校の公民の教科書を教科書無償措置法に基づき、二つ以上の市町村教育委員会が協議して、ある一冊の教科書を共同採択した。これに対して、竹富町の教育長が、地方教育行政法は、教科書の採択権は、市町村の教育委員会にあると定めているのだから、この決定に従う必要がないとの理由で、共同採択した教科書を使用せず、別の教科書を所管の中学校に使用させているというものである。当然ながら、文部科学省は竹富町の行為は、違法であるので、教科書の無償措置を行わないという態度を取っている。

戦前の教育行政は、勅令によって行われていた。戦後は、すべて法律による教育行政が行われている。つまり、法律による教育行政が徹底しているのである。

二つの法律の間で矛盾抵触が生じたときは、特別法は、一般法に優先するとのルールがある。また、後法は、前法に優先するとのルールがある。問題となった、教科書無償措置法と地方教育行政法の関係は、前者は特別法であり、後法である。後者は、一般法であり、前法である。したがって、教科書無償措置法が優先適用になるのである。教育法の有権解釈権は、文部科学省にある。一市町村の教育長にあるのではない。しかし、新聞記事は、このことには一切触れていない。それどころか、英雄視しているように見える。

法律による行政には、いくつかのルールがある。このルールを守らないと、法的安定性が確保されず、法治主義が害されることになる。

今、集団的自衛権についての議論が安倍総理の発言を中心に国会やマスコミで盛んに行われている。この方法論に疑義がある。安倍総理は集団的自衛権に関する憲法解釈の変更を閣議決定によって、行おうとしている。一方、野党側は、国会論議すべきである、国会で決定すべきであると主張する。

閣議決定すれば、憲法解釈を変更できるのか。内閣総理大臣が変わるたびに憲法の解釈が変更されたらどうなるのか。国会議員が、かわるたびに憲法の解釈が変わったらどうなるのか。法的安定性が著しく損なわれるおそれがある。

政府の解釈権限は、内閣法制局設置法（国民の代表者で構成される国会が制定した法律である。）に基づき、内閣法制局が有している。今まで、一貫して、内閣法制局長官の国会答弁が、政府の公式答弁と解されてきた。これは、ルールである。このルールが我が国の法的安定性を確保し、法治主義を維持してきた。この原点に戻るべきであると、定年退職者である老人は独り言をつぶやく。

有限会社 ケア・アンド・ハート
代表取締役　池田　徳顯
住所：北斗市大工川２丁目２番21号
TEL&FAX 0138-73-0741
【業務内容】
049-0111　北斗市七重浜 7-7-46
○認知症高齢者グループホーム　『なごみの家』
049-0101　北斗市追分 4-7-43
○老人向け下宿　『フルハート追分』
○居宅介護支援事務所　『木漏れ日』
○ホームヘルパーステーション『木漏れ日』
049-0101　北斗市追分 3-1-28
○セレンデイサービス

これからの目標

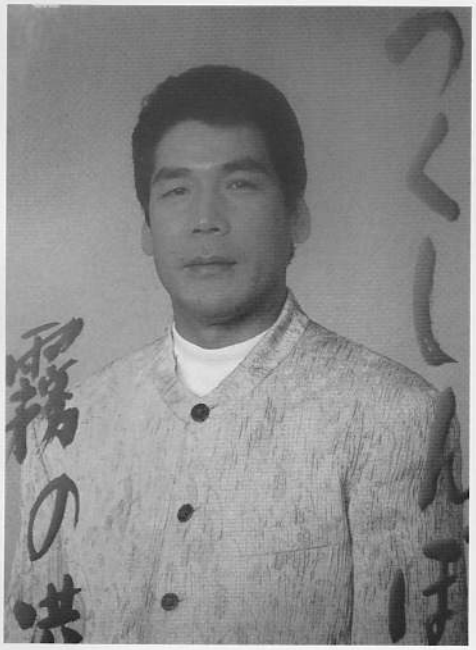
玉川カルテット　上原　和
（旧大野町出身）

東京北斗会創立二〇周年おめでとうございます。月日は早いもので昭和四十六年に旧大野を出てから四十三年となります。

上京後テレビドラマの鉄道公安三十六号に出演した鳴門洋二先生に師事して日舞・小唄・歌等の指導を受け、女優の谷ナオミ劇団の地方公演に参加しました。その後、日本作詞家協会の現会長である里村龍一先生（望郷酒場）、作曲家の大沢浄二先生（北海の満月）、作曲家の藤本卓也先生（あなたのブルース）に師事して歌の勉強をこなしました。

音楽の勉強のためアメリカ、南米のペルー、チリ、アルゼンチン、ブラジルにも行きましたが、最後は演歌にたどりつきました。

そして、作詞里村龍一、作曲岡千秋による「つくしんぼ」、「霧の港町」のレコードをリリースできました。



長く歌手と役者を続けながら、「金もいらなきゃ女もいらぬ、あたしゃも少し背が欲しい」のギャグでお馴染みの玉川カルテットのメンバーとしても8年目を迎えております。

平成二十一年九月の北斗市出身芸能人ふる里共演チャリティーでは玉川カルテットの一員として故郷にお披露目できました。この時、同時に出演していた旧上磯出身の玉川平太朗と知り合う事ができました。

この時の縁で、リーダーに玉川平太朗が入り、ギター上原和、三味線松木ぽん太、ギター二葉しげるの4人で玉川カルテットをつとめ、東京浅草を始めとして日本全国を飛び回っております。

これからの目標は、進行中の新曲リリースと芸能プロダクションの設立です。目標に向けて頑張っておりますので、どうぞご声援をお願い致します。

少年時代

内堀　幸夫
（東京都文京区在住）

幼子三人を抱え満州から引き揚げてきた母と、シベリア抑留から帰還した父の間に生を受けたのが現在の北斗市茂辺地、昔の上磯町字茂辺地。函館・大野・上磯が平野部で隣接しているのとは異なり、わが故郷茂辺地は海と両側を山に挟まれ、一方の山裾を川が流れ、海にそそいでいる自然豊かな村でした。「貧乏人は麦を食え」とのたまった大臣がいたように、後年の国民皆中流意識などほど遠い小学生時代。親は生活に追われ、子供には食べさせるのが精一杯の時代でもありました。

朝、釜の中で軽くて上に浮いた麦をどけて下の白飯を弁当に詰めては母に叱られたものです。昼休み学校から自宅に帰ってもジャガイモとカボチャの塩煮が定番でした。

五円のお小遣いもまれで、甘い物に飢えた子供は山に分け入り自然の恵みに頼る。

コクワ、山ぶどう、桑の実、グミ、シャクなどを採り、思えば当時の遊びは空腹を満たす事と結びついていたようにも思う。それでも大した病気もせず、夏は磯舟が並ぶ砂浜を走り回り、浅くなった川をブルドーザーでプールのように深くしてくれた鮭見橋の下で、白く輝く鮎といっしょに泳いだのも懐かしく思い出される。

川をかなり遡ると両側の山も近づき、家もまばらに点在する「市の渡」がある。仲良くしてくれた中学生に誘われるまま日がな一日木登りしたり、魚を釣ったり、そしてゴム長靴とナタ一本で山深く分け入って遊んだものです。

ある時、道無き道をナタで切り開いて進む彼が、必死でついて行く僕に細く緑色したヘビを投げてきた。驚いた僕があお向けに倒れると「バァーガ青大将だべよー」と言って笑った彼の笑顔が昨日の事のように目に浮かびます。

彼の家の前に大きな柿の木があり、秋にはたわわに実をつける。背後には彩り鮮やかに紅葉した山が連なり、その下を静かに川が流れている。この光景が現在でも夢に出てくるのはありがたいこと。

時計も無い。谷あいの村の日暮れは早く、僕はあわてる。家に帰る道はうねっていて街灯も無い。途中で真っ暗になれば右側にあるお墓が恐ろしいのだ。いつもの事ながら川ぞいに下ることにし、背たけより高いアシをかき分け、石ころだらけの道を急ぐ。天を仰げば、まだ明るさを残した暮れなずむ空はまだ青い。僕は日がとっぷり暮れる寸前の色を、仕事柄、色鮮やかなサファイアブルーにたとえるのだが、それはこの少年時代の経験にあるのです。

もし、自分に穏やかでゆっくりと死が訪れるのなら、薄れゆく意識の中でこのブルーに包まれている自分を感じながら生を終えたいものと願っています

郷愁

花木　瞳
（千葉県柏市在住）

発足二十周年を迎え、ご尽力されました諸先輩達の活躍に感謝いたします。さらなる発展を望み、この会に参加している事を誇らしく思います。

ふるさとは遠くにありて・・・　上磯（北斗市）に寄せる思いは走馬灯のよう。もう生まれ育った月・日よりも長いこちらの生活。いまだに湿度の高い日々に慣れず今年も梅雨時が。ふるさとの、ほおよぎるここちよい風を新幹線の速さに乗って幾度となく足を運びたい。夢かな、目をとじて早、気持は臥牛山の麓の校舎に、巴港の秋色に、海の青、空の青、町並みのコントラスト、まばゆいほどの景色にじっとそのままで何時も居たい。又いつの日かこの場所へ、やはり郷愁がつのる。新幹線の開通が待ちどおしい今日このごろです。

故郷への想い

宮崎　里志
（埼玉県幸手市在住）

東京北斗会が二〇周年を迎えました。長年に亘りご尽力された諸先輩に対し、深く感謝と敬意を表します。

先日、地下鉄に乗ってまもなく、あの懐かしい会話が聞こえてきました。「したら、・・・・・・・・・・・・・・・・でないかい」。思わず振向き、声を掛けてしまいました。田舎者って良いですねー。故郷ってすばらしいですねー。理屈は要りません。同郷と言うだけで、何が無くても解りあえ、すぐに打ち解けることが出来ます。

これまでは、このすばらしさをあまり実感出来ずに来ましたが、皆様と同様、年々、故郷への想いが強くなるとともに、様々な関わりを大切にしたいと思うようになりました。

いつまでも残して行かなければならない「美しい故郷の風景」を思いながら、これからも、一人でも多くの方々と楽しい時間を共有できれば幸いです。

皆様、健康第一にて御自愛下さい。また、元気にお会いしましょう。

ふる里だより

茂辺地の近況について

太田　清壽（北斗市茂辺地在住）

東京北斗会員の皆様、お元気で活躍されていることと拝察致します。

北斗市は雪が多かった割には桜花は例年より一週間ほど早く咲き、今年のゴールデンウイークには松前藩戸切地陣屋跡、トラピスト修道院、大野川河畔、匠の森等々は満開の桜の下に市内外から集まった多くの人で何時になく賑わいをみせたところです。

五月末から六月はツツジやスズランが咲き誇り、まさに「北国の春」真っ盛りです。

北斗市では現在、ご承知のように二〇一六年春開業予定の北海道新幹線が注目の的となっており、様々な分野での将来構想が検討されている次第です。

新駅名も夏までには決定し、開業に向けての最後の準備が一気に進むものと思いますので、会員の皆様にも東京の空からご支援下さるようお願い申し上げます。

新幹線が開通した暁には、三十年も前に夢見た東京日帰りも決して夢ではなく、今から楽しみにしております。さて、ここ茂辺地地区の近況はと言いますと、児童生徒の減少により、小学校は三十名弱、中学校は十名を割ったことで、この四月からはそれぞれの学校名はそのままですが、茂辺地小学校と中学校が併置校となりました。校舎は小学校校舎を使い一緒に勉学に励んでおり、渡り廊下で繋がっていた昭和二十年代～昭和三十年代前半の頃のようです。五十五年間に亘って数多くの卒業生を送り出し、ブロック造りの威容を誇ってきた建物も、耐震性の問題もあってこの夏までには取り壊される予定です。

若者世帯の減少～出生率や人口の減少～高齢化社会～過疎化といった時代の波は、茂辺地地区にも影響を与えている状況です。しかし、住民が減少する中でも茂辺地の風土は決して変わるものではありません。今年も五月二十四日には、住民のより一層の連携強化を図ろうとして小・中学校、ＰＴＡ、町内会、女性会による「茂辺地合同大運動会」が開催されました。

天候が心配されましたが、子供達の思いが伝わったのか晴れ渡った大空の下で老若男女が一緒になって、運動会を楽しむ様子は今も昔と同じです。

グランドに立てられたポールからは、昔懐かしい漁船名の入った大漁旗がロープで吊るされ、イカ漁全盛期が思い出された次第です。

今年から新しくプログラムに加えられた大人達のリレーでは、小・中学生の頃に還り、「俺はリレーの選手だった」などとお互いに自慢し合い、走っている姿は気合十分。

勿論、観客席にいる人達は手に汗をし、声を嗄らしての応援でした。

親子競争では、お父さん（お母さん）と子供が顔と顔でボールを挟んでゴールする姿はなかなか微笑ましい光景でしたよ。

又、人数が少なくなったとは言え、小・中全校生が一緒になっての「ヨサコイ踊り」は子供達の熱い思いがヒシヒシと感じられました。

最近では、全道的にパークゴルフが大変普及しており、茂辺地にも北斗市営のパークゴルフ場が整備され、男女を問わず五十～七十代の方達の手軽なスポーツとして木立に囲まれた緑豊かなコースの中で元気にプレーを楽しんでおります。

隣の当別地区にあるトラピスト修道院には、毎年道内のみならず、本州からも沢山の観光客が訪れており、このゴールデンウイークにも賑わいを見せておりました。

朝に、夕に丸山に抱かれた修道院から聞こえてくる鐘の音には、周りの牧草地とマッチして何とも言えぬメルヘンチックな感じにさせられます。皆さんも目をつぶると四季折々の情景が浮かんでくることでしょう。

一方、三年前には茂辺地川を跨ぎ、通称、林の沢～トドメキ沢（墓地の上）間にはこれまで想像出来なかった高架橋が架かり、高規格道路として供用されており、函館市までの運転時間が大幅に短縮されました。

現在も渡島当別・木古内町方面への建設工事が続けられています。

茂辺地・富川間での車窓から望む津軽海峡の景観は一見する価値があろうかと思いますので、茂辺地へ帰省の際には是非ドライブしてみて下さい。二十数年前の青函連絡船に替わり、今は津軽海峡フェリーが函館・青森間に就航していますので、茂辺地から見る海峡の景色は保たれていますよ。

夏の漁り火（イカ刺し）、秋の鮭魚（鮭なべ）をはじめ茂辺地を想い、皆さんが何時帰って来てもいい

ようにと、例え人口が少なくなったとしても茂辺地の山河は変わらずに残っているものと思います。茂辺地に住む者としては、たまに帰省する友達と会うたびに誰々さんは元気かと話題となり、子供の頃一緒に遊んだ事が走馬灯のように蘇ってきます。なんと言っても夏の葛登志灯台下でのウニやアワビを採った磯遊び、もう二度とすることはできませんね。

海の幸と山の幸に恵まれた茂辺地って、何と素晴らしい所かと感じるのは住んでいる私だけだろうか。北の大地に新幹線が開通した時には、ご家族・友達をお誘いし是非お越し下さることを期待しております。

結びになりますが、東京北斗会の皆様のご健勝と益々のご活躍を、さらには東京北斗会の一層のご発展をご祈念申し上げます。

創立二〇周年おめでとうございます

池田　徳顯（北斗市大工川在住）

東京北斗会創立二〇周年おめでとうございます。また、会員の皆様には、都会の喧騒の中で長年生活されましたこと、心より敬意を表します。

私は、上磯小・中学校から函館西高等学校まで、野球をしていました。社会人になってからも、朝野球や中学生の硬式野球チームの監督・コーチと五十歳過ぎまで野球から離れられませんでした。今思い返せば、田んぼのあぜ道を使った三角ベースの野球が原点だった気がします。昭和三十年から四十年代の上磯は、豊かな田園風景が広がり三角ベースには適した環境だったと思います。

しかしながら、その後の高度成長期の宅地造成や道路・施設整備等によって、その環境は確実に変化し、田んぼを使って遊ぶこと自体なくなった様な気がします。函館江差自動車道が上磯を東西に横断し、今では茂辺地まで開通。それと並行して平成二十八年開通予定の北海道新幹線の橋脚も露わとなり、昔の風景から一変してしまいました。利便性の追求と時代の流れで片づけてしまっていいものなのかと考えさせられます。とは言え、上磯はまだまだ快適な生活環境にあると言えます。気候がよく、海の幸山の幸が豊富、何よりも人が温かい・・・。

私は、大学生時代に神奈川と埼玉で四年、社会人では札幌で七年程生活をしましたが、私のような田舎者には、共に馴染めず退散。上磯に戻ってからは、老人福祉関係の仕事に従事しています。お年寄りとの会話は、常に上磯弁丸出しで、たまに標準語で話すと「なに気取ってるの」とたしなめられます。こんなお年寄りとの距離感を私は大切にしたいと思っています。上磯に生まれ上磯に育てられた私も、あと二年で還暦を迎えます。これからは、福祉を通してほんの少しでも、上磯に恩返し出来たらと考える日々です。

北斗市町会連合会について

磯部　正博（北斗市常盤在住）

北斗市町会連合会会長の磯部です。

東京北斗会の皆様へ北斗市町会連合会について紹介したいと思います。

北斗市が誕生して九年目になりました。北斗市町会連合会は、旧上磯町会連合会と、旧大野町町会連合会が、旧両町の合併と同時に合併して今日に至っております。

北斗市町会連合会は、八十六の単位町内会と、一〇の地区町会連絡協議会によって構成されております。

八十六の単位町内会は、設立年月日のちがい、歴史や文化のちがい、地域性のちがい、世帯数のちがい、活動内容のちがいなど、さまざまなちがいをもっておりますが、それぞれの町内会の実態に応じて、地域に根ざした特色のある運営や活動をおこなっております。

北斗市町会連合会の特色として

○八十六の単位町内会と、一〇の地区町会連絡協議会の自主的、主体的活動の尊重と推進。

○七つの部会（総務部会、保健衛生部会、青少年部会、警防部会、交通部会、福祉部会、女性部会）の組織的な活動（部会を構成する部員は単位町内会長。女性部員は別に定める方法で選出）

○管外視察研修や、単位町内会会長会議、新年研修会の開催による課題解決の方向性をめざす共通理解の推進。（管外視察研修：平成二十五年度は青森県十和田市町内会連合会との交流。平成二十六年度は北海道伊達市連合自治会協議会との交流）

○防災・減災、防犯、交通安全など、安全・安心なまちづくりの推進

○北斗市、北斗市議会、関係機関・団体との密接な連携と協力。などがあげられます。

幼児から高齢者まで、市民が安心して生活ができる北斗市を目指して、町会連合会や各町内会は、活動をしております。

ご承知のように北海道新幹線の新駅の所在地として、北斗市は発展しております。

そして、「ふるさと」北斗市は、豊かな自然に恵まれております。

北斗市民の「きずな」や「つながり」をもっと強いものにして隣り近所「むこう3軒両　どなり　ふれあい　つながり　支えあい」の実践を目指して、町会連合会や町内会活動を進めているところです。

東京北斗会の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りして「古里だより」といたします。

旅行記

花見の一泊旅行

武井満野子（東京都墨田区在住）

四月二十一日、福島の三春の滝桜には一度は行ってみたいと思っていたところ、今回楽しみにしていた福島行きの旅行がありました。

小松さんがすべてを手配してくださいました。

私も、旅行の世話役でしたが、集金位が私の役目、楽して、楽しく遊ばせていただきました。小松さんありがとうございました。

私もこの会の幹事を裏朗の石川さんから引き受けながらも年月が経ちました。

自分の健康を心配しなくてはいけない年齢になりました。そろそろお若い方にバトンタッチする時期と考えています。

女性の方で、この会を盛り上げて下さる方をお待ちしております。年に、何回か幹事会があり、集まります。和気藹々でその後お楽しみがあったりします。女性の方が少数なので女性の方に是非参加をお待ち致しております。

東京北斗会二〇周年の旅

坂井　双葉（埼玉県さいたま市在住）

毎年、東京北斗会の総会・懇親会でお会いする故郷を共にする人達と二十周年を記念する一泊旅行が企画された。

福島の復興を願いながら東北の地へと私達は修学旅行生さながらの心地で赴いた。

スパリゾートワイアンズで、世界一の露天風呂、フラガールのダンス、美味しい料理と大宴会で堪能し、二日目は三春の滝桜に会えた。国の天然記念物指定にふさわしく、曇天の中での「しだれ桜」はあでやかな気品に満ちた風情で辺りを払っていた。

私が最も心ひかれたのは、予想を超えたフラガールのダンスのド迫力、情熱的な踊りの技であった。以前、「フラガール」と言うテレビドラマを観たことがある。

東北の小さな炭鉱の村が、度重なる事故や石油に切り替わる時流の中で、閉山に追い込まれる。

生活苦で娘を売る家も出てきた。雪の中で息をひそめるように暮らす村に、東京から訳ありのフラダンスの教師が逃れて来て住みつく。誰も深い事情などは知らない。そのうち、彼女に興味を持ち始める村の娘達がいて、教師の方も何かの屈託を発散させるように娘達にフラダンスを教え始める。厳しい練習の日々に幾度も挫折を繰り返しながら、教師も生徒も死に物狂い。遂にその村、町の観光の目玉として活躍するようになった。ドラマは村に起こったこんな事実が下敷きとなっていたものだった。それが、今につながり規模、技術が大きく発展し、観る者にまた明日から「頑張って生きよう！」の活力を与えてくれる。

人間の努力、情熱が見事に実った実例と言えよう。

一泊の小旅行であったが、いろいろ考えさせられ、満足した刻でありました。

会員近況

先般四月に東京北斗会20周年記念行事として「ハワイアンショーと桜の名所『三春の滝桜』見学ツアー」を開催し、二十二名の会員の方々に参加していただき思い出多い、楽しい旅をして参りました。

そのツアー募集時の返信ハガキの通信欄に記された近況等を抜粋したものを掲載します。掲載した会員様には許可を頂いておりませんが、何卒ご容赦ください。敬称も略させて頂きました。

＊『満20周年を迎えうれしいです。体調が順調でありませんが、参加の皆様どうぞ楽しい旅行であります様祈っております。』（石井郁子　谷川）

＊『高齢者になりましたが元気に山登りしております。一泊旅行楽しみにしております。』（本間美那子　上磯飯生町）

＊『元気で働いています。七十九才になりました。』（佐藤たい子　茂辺地）

＊『今回は不参加ですが、この様な催しがありましたらご連絡下さい。皆様に宜しくお伝え願います。』（岩谷潤一　茂辺地）

＊『卒寿になりましたがおかげ様で足腰は元気です。』（中野忠彦　峩朗）

＊『二〇周年おめでとうございます。早いですね！相馬先生と立ち上げする時に、いろいろ集まったことが懐かしいです。あれから相馬先生をはじめ私たちの同級生も亡くなり年々淋しくなりました。秋に行っている総会も行事とぶつかったりでなかなか～。今年は是非ともと思っています。』（吉泉幸子　上磯）

＊『介護の仕事をしています。いつか参加できる日を楽しみにしています。大野の方、いらしゃいますか。』（大塚幸枝　大野町向野）

＊『昨年は骨折のため最悪の年でした。やっと回復したので今年は最高の年にしたいと思っています。ご盛会を祈っています。』（小埜寺直巳　浜分）

＊『新幹線の駅名は地元の人達は〝北斗函館〟とすべきとの意見、多数だそうです。』（矢澤弥生　三ツ石）

＊『時々ゴルフ、ハイキング、ジョッギングを楽しんでいます。』（小田島幸三　上磯）

＊『返事が遅くなり申し訳ございません。当日！を楽しみにしております。よろしくお願い致します。〝東京北斗会〟に感謝！感謝！です。』（坂井双葉　茂辺地）

＊『長男が小学校で2分の1成人式があり、子供の成長にとても感動しました。』（長川絵美　大野町）

＊『元気に趣味や家事に毎日忙しく過ごしています。御盛会を祈ります。』（小島泰男　上磯本町）

＊『元気でおります。八十七才になりましたが、まだ海外出張もしています。』（須藤良作　谷好町）

＊『行事に一度も参加しておりませんが会費だけは払わせて下さい。便りを楽しみにしております。』（館文雄　上磯）

＊『ご無沙汰しております。参加できず申し訳ありません。現在、民生委員や自治会・連合等の役員をしており、重なり本当に申し訳ありません。皆様によろしくお伝えください。』（大野洋子　茂辺地）

＊『怪我をしてリハビリ中の為、旅行参加できません』（岡部かつ子　浜分）

事務局から連絡とお願い

1．年会費の納入について

年会費の納入成績が振るわず年々減少傾向にあります。

総会会場の値上げ、消費税のアップなどにより本会の預金残高も徐々に少なくなり、会の運営に支障を来たすことが懸念されるようになりましたので、会費の納入について格別のご協力をお願い致します。

納入に関しましては同封の郵便振替用紙を使用して下さい。

2．役員・幹事一覧及び会則（別掲）

本会の幹事は出身校別に選出されておりますので、新規加入者などの連絡は当該幹事を通じてお願い致します。

3．会員の状況（出身別　7月1日現在）

上磯　56名	谷川　19名	峩朗　13名	清川・沖川・島川　9名		
浜分　20名	茂辺地　39名	石別　18名	大野　8名	合計　182名	

行事報告

★第19回総会・懇親会の開催

平成25年10月26日に「アルカディア市ヶ谷」（私学会館）にて、第19回総会・懇親会を開催しました。

出席者は、来賓9名を含めて総員75名でした。玉川カルテット（会員が2名）による漫談を始め、会員のカラオケ、フラダンス、尺八、詩吟・舞踊などアトラクションがびっしり詰まり時間が足りなくなりました。雰囲気が最高潮のまま、二次会の会場に移動し会員相互の親睦を深めました。

（地域別出席者）
上磯20名・茂辺地19名・浜分8名・谷川5名
石別6名・袰朗4名・沖川2名・大野2名
合計66名

☆観桜会

平成25年3月30日（土）隅田公園にて花見を行いました。

この年は桜の開花が10日程早くなるとのことで急遽4月6日の予定を1週間早めて行いました。そのため都合が付かなくなった会員が数名出たために役員・会員が13名の参加になりました。それぞれが持参の弁当や飲み物で、満開の桜と東京スカイツリーを見上げての宴会は盛り上がり、歌と踊りで通行人も止まって見学する程でした。

☆福島ハワイアンズ一泊旅行

20周年の記念事業の一環として、福島応援も兼ねて4月20日～21日の一泊旅行を企画し会員の皆様方に案内を致しましたところ、参加者は役員と会員他を合わせて22名の参加となりました。

1日目はホテルで世界一の大露天風呂温泉に浸かり、夕食時のカラオケによる宴会で大はしゃぎ、その後フラガールショー見学、部屋に戻り、飲み直しで午前様。

2日目は日本一と言われている「三春の滝桜」（樹齢千年以上の枝垂れ桜）を見学、昼食は小名浜港に行き、お酒付きの海鮮料理で舌鼓を打つ。帰りは途中で事故渋滞に遭い予定時間を若干過ぎたが無事到着、新宿で解散となりました。

飲み放題、お土産付きの本当に賑やかで楽しく有意義な旅行でした。

交通手段・往復バス
○4月20日
10時東京駅前出発
12時30分ハワイアンズホテル到着
○4月21日
8時ホテル出発
9時10分～10時15分三春の滝桜を見学
11時45分～13時小名浜・海鮮料理で昼食
ホテルへ戻る
15時ホテル出発
18時30分新宿駅西口到着

編集後記

御茶ノ水のホテル「聚楽」で　東京上磯会がうぶ声を上げてから今年で二〇回目の総会懇親会を迎えることになりました。十九回より名称が東京北斗会に変更しましたが多くの会員や北斗市関係者のあついご支援・ご協力をいただき何とか〝イッチョウマエ〟に成長してまいりました。

ここに二〇周年記念号を発刊することになり北斗市市長はじめ北斗市の団体からご寄稿を賜り誠にありがとうございました。

そして、会員の皆さんからの寄稿で充実した内容の記念号が完成したことに、深く感謝申し上げます。会報の発行はふるさとへ熱い想いをよせる会員を結ぶ　絆です。

会員相互ならびにふるさととの情報交換を図り、北斗会の求心力としての役割を果たしてまいります。

これからも〝めんこがって〟いただけたら無上の喜びです。

（編集委員長　佐藤金也記）

東京北斗会会報『磯の香』
20周年記念号・通算第7号

発行　東京北斗会
発行日　平成26年8月1日
事務局　坂本東洋志
住所　〒341-0044
埼玉県三郷市戸ヶ崎2954-1-432
電話／FAX048-956-0212
印刷所　富士製版印刷株式会社
住所　〒154-0002
東京都世田谷区下馬4-17-17
電話03-3411-1241

役員一覧

平成26年8月1日現在

役　職	氏　名	住　所	出身町
会　長	金谷　忠勝	東京都調布市	上磯
副会長	佐藤　金也	神奈川県横浜市	茂辺地
副会長	小松　直樹	神奈川県横浜市	上磯
事務局長	坂本東洋志	埼玉県三郷市	茂辺地
事務局	外山　幸雄	神奈川県茅ヶ崎市	上磯
事務局	佐藤　則道	東京都中野区	谷川
会計監査	細川　国勝	神奈川県海老名市	浜分
会　計	簡　　和弘	埼玉県さいたま市	峩朗
会　計	花木　　瞳	千葉県柏市	沖川
幹　事	高橋　昌三	東京都新宿区	石別
幹　事	齋藤　清信	神奈川県横浜市	谷川

役　職	氏　名	住　所	出身町
幹　事	中村　紀之	東京都東大和市	浜分
幹　事	武井満野子	東京都墨田区	峩朗
幹　事	池田喜久雄	千葉県千葉市	茂辺地
幹　事	宮崎　里志	埼玉県幸手市	上磯
幹　事	米田　正彦	東京都福生市	大野
幹　事	加藤　和子	北海道函館市	茂辺地
相談役	郷内　　繁	東京都港区	上磯
顧　問	高谷　寿峰	北海道北斗市	北斗市長

「東京北斗会」会則

1. 本会は「東京北斗会」と称し、事務所を会長宅（会長宅住所を記載）に置く。
2. 本会は東京都及び近郊在住の北海道北斗市出身者並びにその関係者等をもって組織する。
3. 本会は会員相互の交流と親睦をはかり、併せて故郷の限りない発展に寄与する。
4. 本会は前項の目的を達成するために次の事業を行う。
   (1) 集会の開催
   (2) 会報の発行
   (3) 会員名簿の作成
   (4) その他本会の目的達成に必要な行事
5. 本会に次の役員を置く。
   会長　1名
   副会長　2名
   事務局長　1名　事務局　若干名
   会計監査　1名
   会計　2名
   幹事　若干名
6. 会長及び副会長、会計監査は総会において選出し、事務局長・事務局・会計並びに幹事は会長が委嘱する。
7. 役員の任期は２年とする。但し、再任は防げない。
8. 集会は次の５種とする。
   (1) 総会　(3) 懇親会　(5) 幹事会
   (2) 臨時総会　(4) 役員会
9. 総会は毎年１回開催し、予算の審議並びに前年度の会務及び決算報告を行い、併せて重要事項を審議する。
10. 本会の経費は会費及び寄付金をもって充てる。
    (1) 年会費は一人2,000円とする。
    (2) 夫婦会員及び同一住所に住んでいる「親子・兄弟姉妹」の会員は一人分を徴収する。
11. 本会の会計年度は９月１日から８月31日迄とする。
12. 本会に新規入会するものは、所定の申込書に必要事項を記載し会長の承認を得るものとする。
13. 本会則は総会の決議により変更する事が出来る。
14. 本会則は平成７年10月１日より実施する。
15. 本会則は平成15年10月18日より改訂、実施する。
16. 本会則は平成20年10月18日より改訂、実施する。
17. 本会則は平成22年10月17日より改訂、実施する。
18. 本会則は平成24年10月27日より改訂、実施する。

以上

第 20 回総会・懇親会のご案内

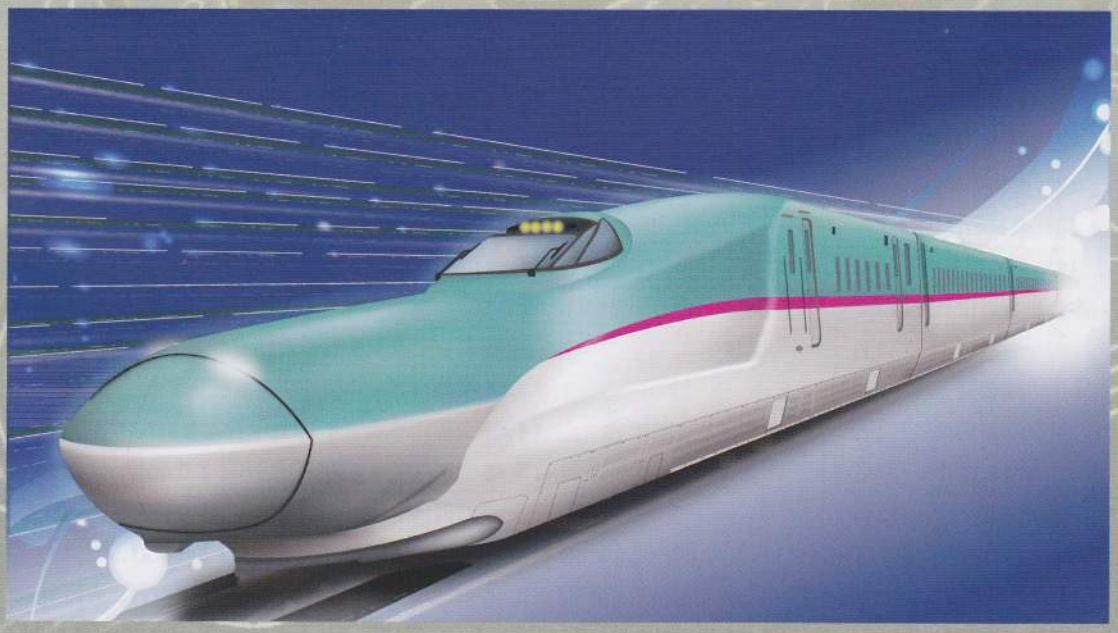
“東京で語り合いましょう！北斗を”

初秋の候、ますますご清祥のことお慶び申し上げます。
わが東京北斗会も会員皆様のご支援ご協力によりまして 20 周年を迎えることができました。
さて、今年の総会・懇親会は下記の通り開催しますので、例年通り友人知人をお誘いの上、たくさんの方々の参加をお待ちしております。

記

日　時　平成 26 年 10 月 18 日（土）13：00 ～ 16：00

場　所　「アルカディア市ヶ谷」（私学会館）6 階　霧島
東京都千代田区九段北 4－2－25　　電話　03－3261－9921

会　費　男性　10,000 円（年会費 2,000 円含む）
女性　9,000 円（年会費 2,000 円含む）
＊夫婦同伴は 2 人で 16,000 円（年会費 2,000 円含む）
＊夫婦会員及び同一住所に住んでいる親子並びに兄弟姉妹の年会費 1 人分のみで可

北海道新幹線・新函館北斗駅　2016 年 3 月開業予定